

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム 弘医荘
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉郡筑前町高上962 (電 話) 0946-21-8505
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年11月26日

【情報提供票より】(平成21年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 14日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.57人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	4 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	☒ 有 (51,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大刀洗病院、朝倉記念病院、ハートスマイル歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4階建ての建物の1階にグループホームがある。ホーム内は明るく家庭的雰囲気である。ホームの理念を常に意識し、「人間性の尊重」が実践されている。“否定しない介護”を浸透させ、本人の気持ちを優先的に考えて利用者のあるがままを受容した丁寧な介護がされている。業務の中での情報交換が密にされているため、職員の連携した対応につながっている。また、病院との連携も十分に行われており、利用者本人と家族の安心につながっている。特に重度化や終末期においては、併設病院に移られることが多く、馴染みのホームでぎりぎりまでケアを行い、移られた後も面会に行き、関係を断ち切らない支援が行われている。重要事項が高齢者に対応した大きな文字で書かれ、相手に配慮した心配りをされている。5年前からボランティアの指導のもと陶芸をしており、町を巻き込んで作品展示会をしている。ますます期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題を真摯に捉え、改善に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。1項目ずつ見ていく中で気づきがあり、ケアの見直しのいい機会ととらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2カ月に1回、利用者全員、家族、区長、民生委員、老人クラブ、地域包括支援センター、行政、母体病院の相談員の参加で開催されている。ホームの基本方針や活動報告の他、テーマを決めて行われている。また、定額給付金やインフルエンザのこと等の質問もあり、意見交換が行われ、サービスの質の向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	2か月に1回、家族へ行事予定と個別に写真入りで、暮らしぶりや健康状態を詳細に書いた「たより」を出して、報告をしている。金銭管理は領収書を貼った出納帳を開示し、毎月サインをもらっている。ホームおよび公的な苦情・相談の窓口を重要事項説明書やポスターで明示している。意見箱を設置している。意見や苦情を言いやすい雰囲気づくりに留意するとともに、アンケートをしている。意見があるときは、真摯に受け止めて対応をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム内陶芸活動の成果を町民ホール学習館で展示している。そのポスターをバス停、地域の消防署、警察、公民館、区長、老人会へあいさつに出向き、貼ってもらっている。当日も展示会場へ交代で行き、地域の方たちと交わりをもっている。また、地域の人にプレゼントすることもある。その他、文化祭等の行事や地域の方から野菜を頂いたりして、交流をしている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険改正後、グループホームは地域密着型サービスになったが、グループホーム設立時の理念のままである。今年度の目標では地域との交流をあげている。	○	地域との関係性の大切さを認識し、地域密着型サービスとしての役割をめざして実際に取り組まれているが、理念が創設時のままなので、全職員と理念の見直しをされることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの戸惑いがあった時には、申し送りやミーティングで理念に触れ、具体的なケアについて意見の統一を図っている。また、ホーム内3か所に理念を掲示し、名札の裏面にも入れており、いつでも確認ができるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内陶芸活動の成果を町民ホール学習館で展示している。そのポスターをバス停、地域の消防署、警察、公民館、区長、老人会へあいさつに出向き、貼ってもらっている。当日も展示会場へ交代で行き、地域の方たちと交わりをもっている。また、地域の人にプレゼントしたりしている。その他、文化祭等の行事でも交流をしている。地域の方から野菜をもらうこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。1項目ずつ見ていく中で、気づきがあり、ケア見直しのいい機会ととらえている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回、利用者全員、家族、区長、民生委員、老人クラブ、地域包括支援センター、行政、母体病院の相談員の参加で開催されている。ホームの基本方針や活動報告の他、テーマを決めて行われている。また、定額給付金やインフルエンザのこと等の質問もあり、意見交換が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	陶芸展示会場が町の建物であることから、行政とも連絡・相談、行き来が多くある。制度的なことでもお互いに連絡を取り、相談しやすい関係にある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部研修において権利擁護に関する研修を受け、伝達研修をしている。成年後見制度に関するポスター掲示、パンフレット等を置いている。家族からの質問には対応ができるようにしている。	○	家族に対して権利擁護のポスターやパンフレットの準備だけでなく、家族会開催時を利用して説明するなど、情報提供の機会を持たれることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対して2か月に1回、行事予定や健康状態、個別の写真を載せての暮らしぶりを、一人ひとり詳細に書いた「たより」を送って報告をしている。金銭管理は領収書を貼った出納帳を開示し、毎月サインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームおよび公的機関の苦情・相談窓口を、重要事項説明書やポスターで明示している。意見箱を設置している。意見や苦情を言いやすい雰囲気づくりに留意するとともに、アンケートをしたりしている。意見があれば真摯に受け止めて対応をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員には、利用者へのダメージを防ぐために、業務優先でなく、時間を大切に利用者に関わり、ゆったりと話をし、顔なじみになるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。現在男性3人を含めた、20歳代から60歳代の職員が雇用されている。1年に1回、管理者が職員自らの目標シートを基に面接をし、能力を発揮して生き生きと働くことができるように取り組んでいる。職員が希望する休みの調整や資格取得に向けての応援もしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に行くことはないが、人権に係わる広義の抑制廃止に取り組んでいる。理念に人間性の尊重を謳っており、常にケアにおいても留意している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をたてており、外部研修に参加している。内部研修として、毎月1回勉強会を行っている。また、日頃より職員のレベルに応じた指導を行っている。介護に関する情報は新聞の切り抜きなどを壁に留め、職員に読んでもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、輪番制で積極的に勉強会や施設見学等に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体病院入院先から入居となる場合は、同じ敷地内であることから、複数回面会に行き、顔見知りになるようにしている。自宅から入居になる場合は、自宅に訪問し、日常生活の様子を見たり家族や本人と話し、本人の理解に努めるとともに馴染みになるようにしている。また、ホームに来てもらって、お茶を一緒にして、雰囲気に馴染んでもらい、本人に納得してもらって入居に至るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を手伝ってもらったり、時には干し柿づくりなどを教えてもらったりもする。また、落ち込んでいる時、慰めや励ましてもらうこともある。日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共にし、支え支えられる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して利用者の希望や意向の情報を職員間で共有している。日常の生活場面で表情や発言からいつもと違うとキャッチして散歩に連れ出すなど、細やかな対応を実践されている。業務の中での情報交換を密にしているため、職員の連携した対応につながっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ちが本人や家族に意向確認を行い、計画作成担当者に相談しながら介護計画の原案を作成している。暮らしの中で気付いたアイデアを利用者ごとの記録の中に入れるとともに、月1回の会議で情報共有を図り、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者によって長期目標が1年または半年となっており、現状に即していない場合、ケア会議で見直しを行っている。追加目標が清書されていない点があるが、きちんと評価も行われおり、現状に合った介護計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際、お見舞いや遠方の家族に代わって洗濯物支援が行われている。また、母体病院との医療連携が充実しており、夜間帯でも医師・看護師が駆けつけられる環境から、ぎりぎりまでホームで療養できるよう支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの選択にあたり、当ホームを選ばれた理由が病院併設ということが多く、かかりつけ医を母体病院に変更される方が多かった。母体病院以外の受診の際は家族が同行しているが、家族の都合が悪い場合は職員が同行している。受診前後には家族と連絡を行い、情報を共有できるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療が必要な状態になったことを想定しての説明の文書を取り交わしている。以前に看取りを行ったケースがあったが、最近は併設病院に移られることが多い。馴染みのホームでぎりぎりまでケアを行い、移られた後も面会に行き、関係を断ち切らない支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	共用トイレのトイレトペーパーを持ち出す利用者がいても、制止することなく受容し、本人の気持ちを優先的に考え、さりげないケアを実践されている。記録物は事務室にて管理されている。職員の接遇で気になることがあれば、管理者より注意を行うが、場所を考えるなどして誇りを傷つけない配慮をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム理念である「人間性の尊重」を実践されており、その日の利用者の希望に合わせて部屋で過ごしたり、自宅の畑まで家族に代わって連れていったり、希望に沿って介護している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設法人で3食作られるが、週に1回ホーム内で利用者と一緒に手作りの料理を作っている。献立は利用者と一緒に考え、楽しみながら食事作りが行われ、下ごしらえを手伝ってもらっている。買い物は、地元スーパーで住民の方と挨拶をするなど、触れ合いの機会になっている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、一緒に食事をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに午後、入浴を行っているが、希望があれば毎日入浴できる。馴染みの利用者2人で入浴をされたり、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月1回バスハイクが企画されており、温泉や道の駅でのバイキング料理など、自分で食べたいものを自己選択できる機会を設けている。ホーム内でも個々に合わせた役割があり、視力障がいがあっても出来る活動はやってもらうなど、その人の力を引き出すよう支援されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設法人にて食事が作られるため、利用者と一緒に取りに行っている。気候がよければ、敷地内の藤棚まで散歩したり、敷地外に出て田園を眺めながら散歩するなど、積極的に外出できるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間防犯のためにに施錠は行いが、日中は施錠していない。利用者の気持ちに寄り添い、いつもと違うと感じた場合は一緒に散歩するなどして、気分転換を図れるよう支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回防災訓練を行い、法人合同の訓練や消防署立会いの上で様々な場面を想定した訓練を行っている。備蓄も併設法人内に3日分備えている。敷地内に病院があることから応援体制は出来ているが、近隣住民の参加までは至っていない。	○	運営推進会議でのテーマに火災について取り上げられていた。また、地域とのつながりも少しずつできているので、防災訓練の際、地域の人たちにも声をかけ、共同の災害対策に向けた取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は主・副食と分けて10段階で摂取量をチェックし、水分量はおおまかに把握している。水分は談話室にて何時でも飲めるよう準備されている。母体病院の管理栄養士により運動量にあわせた栄養バランスで1300キロカロリーの食事を提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく日が差し込む談話室にはソファが並び、ゆっくりくつろぎながら庭の畑や草花を眺められるように配置している。また各所に花や利用者が作った陶芸作品も飾ってあるなど、家庭的な雰囲気作りに努めており、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が描いた観音像の掛け軸や写真など、馴染みの物を部屋に飾り、ベットが苦手な利用者には安心して寝られるように工夫している。入居時には、壁紙とカーテンは新しいものに取り換えた上で、利用者が居心地よく過ごせるよう家族と相談している。		